



11月号

昭和56年11月1日  
編集/発行  
岡崎市教育委員会

肩の力をぬき、  
背すじを伸ばし、  
ゆっくり、大きく、  
胸いっぱい息を吸いこむ。  
頭のすみずみまで、  
朝の空気がみなぎる。  
目が大きくかがやいてくる。  
さあ、  
ことばの練習だ。

隣の教室からも、  
遠い一年生の教室からも、  
元気な声が響いてくる。

腹筋を使って、  
一音、一音に力をこめて、  
発声練習をつづけていると、  
むくむくと、  
自信が湧いてくる。

さあ、  
今日もがんばるぞ。



(鏡の前の口形練習—矢作北小)

## —教育随想—

## イギリスの思い出

片岡 清見



五年ぶりの訪問である。前日電話で打ち合わせたようにロンドンのパディングトン駅に、同行の娘と午前十時二十七分発の列車に乗る予定で地下鉄の駅に行く。土曜日であることに気付いたのはおそかりして電車はさっぱり来ない。来てても行きが違っていて列車の時刻が気になる。やととバ駅に十時少し前に到着。行列に並んで切符を買う。順番が来て改札口を通過しようとしたら、土曜日は指定券がないと駄目と言われ、当日売場へ走る。指定券は手に入れたが、先程買った切符は割引切符で通用しないとのこと、追加の金を払って、また二人で改札口へ走る。発車三分前、汗だくで列車に乗りこむ。

約三時間で目的地のトーントン駅に着くとG夫人が車で出迎えてくれた。五年前に泊ったS夫人の隣になるG夫人宅に着く。S夫人は米国に旅行中である。前

回鳥居校長(愛宕小)と三日間過ごした二階の窓を見上げた。イギリスでは独立家屋に住むには特別の税金を払わねばならず経済的負担が大きい。G夫人の家も平屋ではあるが、庭も広く芝生の手入れもよく花が咲き乱れている。

ロンドンでも同じで、蚊やゴキブリはみかけない。蠅や蜂に気付く程度でからりとしていて真夏でもしのぎやすい。晴れた日の二十度の気温は快適である。

玄關から入ると美しいカーテン、色鮮やかなじゅうたんが目に入る。G夫人の手製の昼食はチキンを主にした簡素なものであるが美味であった。午後から車でサマーセットの田園風景を満喫したが、山がなく見渡す限りの畠と牧場で牛や羊が草をはんでいる。作業は大農式で大きなコンバインが動いている。農家には土曜休みはないようだ。

日曜日の夕食後五年前の客に加えて約十名の人達がパーティに集まってきた。ある人は手製の菓子を持参して皆に自慢する。週に一度ぐらいの気の合った人達の会合が、サークルの連帯意識を高めるとともに、楽しみの一つと聞かされた。五年前に会った人で亡くなった人もいた。私のこともサークルの機関紙に日本の先生再訪問と書かれていた。パーティは日本のことが中心となり、G夫人が五年前に東京での世界看護婦会議で約十日間在日したことが話題の焦点となる。また青少年の非行問題がでると、わが英国では少ないと、ある農場主は胸を張る。日本はどうかというので、悪い方向に進んでいると答えるとアメリカの影響かなどくる。話題は多方面にわたり内容も豊富であるが、政治的な話はしない。皆日本についての若干の知識を得て帰った。

約一箇月のイギリス滞在で感じた事は、住居については先進国であること、衣食は日本と同程度。ただ食物は日本では種類が多だけ恵まれている。しかし行列への割りこみはこの国では絶対に行ない、すればひんしゆくを買う。日本では近頃特に若者が行列無視をするが、三等国以下の振舞である。斜陽国と言われるが英国人はこせこせしない。弱者は皆で大切にす。"Cut it and p you?"の声が到る所できかれ、進んで奉仕もする日本の青少年の現状をかえりみて憂うるものである。

(前岡崎高等学校長)

## 海外ごぼれ話

Jambo // Kanya

(二人にちは ケニヤ)

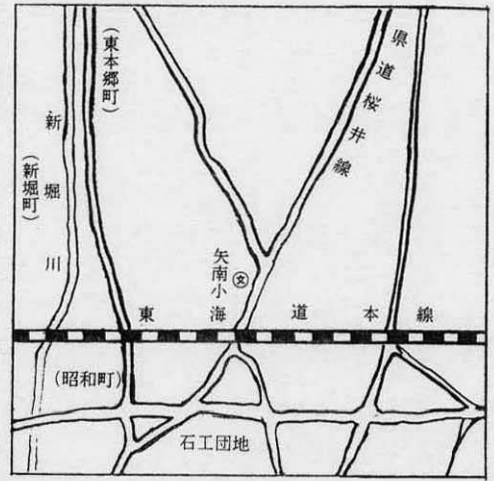
竹内 正和



チータ、エレファント、ライオン、バインソン、ジラフ、インパラ、ガゼル等々、動物は、カメラを向けても安心しておれるが、マサイは恐い。

国立公園であるツアボ(四国程の面積)からアンボセリへの道中、法律で写真撮影の禁じられているマサイ部落へ寄ること話が始まった。ガイドの Mr. Peter は、三六〇シリリング(一シリリング=約30円)で交渉を成立させた。ここでも、金の力は大いなのだ。サファリカーから降り、ブッシュに囲まれた部落へはいるには、勇気が必要だった。牛が生活のすべて。もうれつなハエの群れ、目、鼻、耳口、ものの数秒で全身ハエだらけだ。牛の糞と土をこねて作った家、あちこちにあるホカホカの糞。そこで見た彼らの姿は、子供に女と年寄り。あの全身バネの若者は何処か。

アンブレラアカシアの木の下に牛の群れを見た時、思わずカメラを向けてしまった。まさかと思つたが、男達の影が植



—ふるさとの山河—

## 新堀川

「毎年毎年、こんなに水不足では、俺たち百姓は、どうしたらいいのか。何とかならないものか。安心して米が作りたいものだ。」

こんな会話が、江戸時代初期までは、矢作の農民たちの口から、常に聞くことができたようであった。また、これとは反対に、矢作川によるところの大水の被害も、後を絶たなかった。当時の土木技術等では、これらの自然災害に対しては、無力に等しかったことは明らかである。そんなある日、新堀村(現在の新堀町)の本多又左衛門は、堂々と豊かな水量をたくわえて流れる矢作川を眺め、

「そうだ。この矢作川を利用するのだ。きっと、村の衆が助かるぞ。」

と、手を打った。又左衛門の考えは、用水路をひくことである。早速、小望(現在の昭和田)の庄屋権太夫と相談し、計

画実行に移った。一口に用水路をひくといっても、それは大変な仕事であった。村人に説明しても、わかってもらえそうもない。又左衛門たちは、夜中に測量をして予定図の作成をした。そのため、裕福であった又左衛門の家は、全ての財産を失ってしまった。しかし、その努力が実り、承応二年(一六五二)、とうとう用水路は完成した。この用水路のおかげで、本郷、富永、新堀、小望の村々に、

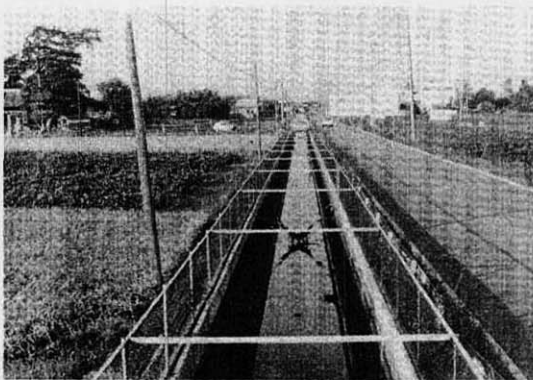
明るい日ざしがさしこんだことは言うまでもない。領主も、この様子を見て大変喜び、又左衛門の業績をたたえ、この用水路を「新堀川」と名づけた。

昭和十八年、戦争の激しい時期になり食料増産と湿地対策のために、新堀川に手が加えられた。この工事は、戦後にかけても行われ、現在の北野用水の基礎になったのである。当時は、コンクリート

も使用されていなかったため、漏れがひどく、改良を願う農民の声が高まってきた。そこで、昭和三十八年、建設省が乗り出し、昭和四十年に現在の姿「北野用水」として完成した。

細川頭首工から水を取り入れ、北野町(島坂町の間、約六・五キロメートル)が北野用水である。農業用水のため、通水期間は四月(九月)であり、十月(三月)は通水されていない。現在の矢作南学区の農業は、この北野用水を除いては、その立地を考えることができないほど、密接な関係になっている。

水不足や水害で苦しんでいた時代の面影を、現在の北野用水から見ることができない。しかし、新堀川はいつまでも流れ続けるであろう。(矢南小熊谷光男)



や牛追い用の棍棒を手に手に、我々に走り迫ってきた。

精悍なマサイ戦士達の姿であった。

Kuwahehi Africa (甲山中)

### 国際親善

井上真砂子

「いのさんも一緒に行こうよ。社会勉強だよ。これは。」

と誘われて、この旅行最後の夜は、何とストリップショーに行くことになった。

前座は、ハンブルグ一のピヤホールから。チロル風の衣裳を身につけた楽隊の音楽に合わせ、テーブルの間を老若男女がダンスのステップをふむ。六、七〇代の男女が軽やかなダンスを見せてくれる。そのうち「スキヤキソング」がかかる。

一行の一人、H先生が赤い三角帽子を楽隊からいただけ指揮棒を振った。曲が終わると、大ジョッキ一杯のビールが出た。ステージの上でH先生は、楽隊の好意に応えんと、一気に飲みほした。場内は一瞬静まり、次にはわれんばかりの拍手。

ピヤホールを去ろうと私達一行が席を立った。H先生は、ほろ酔い加減でテーブルの間を縫い、ドイツ人の肩をたたいた。「いやあ、よい晩ですね。ドイツと日本のために乾杯。」

H先生は、この後のショーを一向に覚えておらぬ、とのこと。ドイツの夜という、あの赤い三角帽子を思い出す。

(常磐小)



## 岡崎再見

32

## 並木



東海道の松並木、夏の日差しや冬の風をさえぎり、道行く旅人の歩みを助けた。また、その並木は土塁の上に植えられ、いざ戦いの場合は切り倒して敵の前進を防ぐように工夫されていたという。時代は大きく変わって今日は車社会、幹線道路は通過交通としての車に対応し

て設計される。並木という風情あることばも違和感をもち、街路樹と表現した方がよりマッチしている。しかし、街に美観を添え、人々に安らぎを与えることには変わりがない。樹木の種類も上木、下木それぞれ道路によって異なり、その沿線周辺の特徴をつくり出している。



2 ヤナギ(早川堤)



1 ヒマラヤスギ(中央緑道)



4 ポプラ(竜美丘小西)



3 プラタナス(伝馬線)





6 イチヨウ (岡崎公園)



5 マツ (東海道・藤川)



8 トウカエデ (本宿グリーンランド)



7 イチヨウ (明代橋線)



10 サクラ (伊賀川堤)



9 サクラ (南中学校北)

## 教育日々



## 心をつなぐ音楽

梅園小 長坂喜代美

「音楽の授業は、音による感動の成長がなければならぬ」ということをよく耳にする。

音楽を専門にやったことのない私が、曲がりなりにも子ども達と一緒に音楽の授業をしてきたが、このことばがいつも心に残っている。しかし、めったに感動はやってこない。

『ゴールめざして』の曲を学習した時、N子の日記の中に私の心に残るものがあり、子ども達に紹介した。

「……帰りの会の時『ゴールめざして』の歌詞を思い出して思いつき歌っていたら涙が出てきた。全力をつくした運動会のこと、みんなで力を合わせた山でのこと、ほんとうにいいクラスだなあと思って、歌っているみんなの顔を見ていたら、また、

よけいに涙がでてきた。」

この日記の波紋は、実際に次の授業で子ども達の歌の心に迫るものを感じた。歌っている子ども達の中には、体育で走ったこと、プールで泳いだこと、体育館で一緒に歌っている自分、キャンプ生活の苦しかったこと等、子ども達をとりまくいろいろなことが歌の中に生きていた。音楽も、毎日の生活、人間関係の影響の中で成長すると思う。

N子の日記からヒントをえて自分なりに音楽と心をつないだY子もいる。

「……いくら歌の感じを出そうと思っても、どうしてもいいのかわからなかった。するとN子さんの日記を読んでもくれた時、そ



のヒントが出ていた。私は、その通りに毎日歌い体育館へも歌に行行った。ピアノのまわりに集まり思いつき歌った。その時、目の前が何も見えなくなりただ歌っている歌詞の様子が目の前に広がり私がうつってきた。私は、そんなまま歌い続けた。すると最後の方になると自然に涙がたまってきた。私の唇はふるえてきた。やっと歌が終わった。私はこの時初めて、この『ゴールめざして』の歌と私の心が通じ合ったように思った。」

この感動をさらに質の高いものにするためには、子どもに合った発声とか、その歌を表現するいろいろな技術が必要である。子ども達がより高いものへ動き出してくることを期待したい。

## 心の声

河合中 高橋 淳

中学三年生ともなると、社会・親・教師あるいは自己を鋭くみつめ、自分なりの見方や考え方をもちようになる。

「自分さえよければ」という悪人になり、他人の不幸に入っつうわべだけ同情している自分の姿をみつめる。(O)いつもしまりのない笑顔をうか

べているOが、自己をこんなにか客観的に捕えているとは思ってもいなかった。また、

「私は親だから、子どもものことはよく知っている。自分の子に限って……」という。親が子をどのようにしようと勝手だ。しかし、間違った見方をするのは許せない。学校での子どもの様子がわかってたまるものか。神様じゃあるまいし、親だけが知らないのだ。(S)

やや反抗心は強いが、困っている級友に対して黙って手を貸してやる優しいSである。

その他、自殺(死)・校内暴力などに目をむけ、自己あるいは他者を捕え、覗きこむ彼らの顔には、まだあどけなさが残っている。しかしもう子どもでもないのだという思いを強くさせられる。どこか、私たちの目の届かぬところで刻々と彼らのところが独り歩きはじめていることに気づいた時、生徒指導のあり方や生徒との話し合いの方法を、もつと慎重に行つていかなければならないのではないかなという思いをつのらせる。

人生は山登りかな?途中でくじけたら頂上にたどりつけない。(F子)



複雑な家庭環境の中にあつて、決して恵まれた生活ではないF子が、「くじけてはならぬ」という意志をもって歩き続けようとする姿を知り得た喜びは大きかった。

作文は、生徒にとつても教師にとつても面倒なものである。しかし、生徒は何枚かの原稿用紙を埋めるために懸命である。そこには虚構などという洒落たものなどない。彼らの本音であり、精神の声なのだ。私は彼らの声を面倒がってはならないという思いを強くした。また、安心して生徒が本音を書くことのできる教師にならなくてはならないと思つた。また、家庭や地域の人達と連絡を密にして、正しく導きたいものである。



# 中日教育賞に輝く

## 市現職教育図工・美術部会

第十三回中日教育賞に、岡崎市現職教育委員会図工、美術部会が、みこと受賞の栄誉に輝いた。

中日教育賞は、昭和四十四年以来、教育現場ですぐれた業績をあげた中部九県下の個人、団体に与えられてきたもので、本年は、百九件の応募があった。芸術の秋がやってくると、乙川（菅生川）河川敷で催される「造形おかざきつ子展」は、岡崎の秋を彩る年中行事の一つにさえなっている。三十九年に籠田公園を会場にスタートして以来、ことしはもう十八回目を迎えることになる。

「造形おかざきつ子展」は、国際美術教育者会議や全国造形教育研究大会にその成果が報告

【寄贈刊物・資料等】

◆児童ひとりひとり能力を伸ばし、自己表現をはかるために 矢作東小編 B5版

◆竜美丘小―五年の歩み― 竜美丘小編 B5版変形

され注目を集めている。同部会はまた、五十三年度愛知県芸術文化選奨文化奨励賞も受けている。

### ■河合中に環境庁長官賞

岡崎市立河合中学校は、このほど野鳥保護活動の功績が認められ、十月二十四日、東京、日比谷公会堂で開かれた自然公園制度発足五十周年記念式典の席上、環境庁長官賞を受賞した。同校では、四十一年から理科クラブの野鳥班を中心に学区内の野鳥の分布調査を開始。その後「野鳥看板」の設置、エサ台を使った餌付け、実のなる木の植樹、巣箱の設置、愛鳥ポスターの作成、「野鳥だより」の発行など、地道な保護活動を継続し、自然保護意識の高揚にも力を注

## 第8回 岡崎市中学校新人体育大会

(水泳競技の部) 昭和56.9.13

### ●総合成績

|    | 優勝 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 |
|----|----|----|----|----|----|----|
| 男子 | 矢作 | 甲山 | 葵  | 竜海 | 福岡 | 附属 |
|    | 38 | 35 | 31 | 17 | 15 | 11 |
| 女子 | 矢作 | 竜海 | 福岡 | 矢北 | 城北 | 甲山 |
|    | 43 | 35 | 28 | 19 | 14 | 13 |

### ●個人成績

| 種目         | 男子       |    |        | 女子       |    |        |
|------------|----------|----|--------|----------|----|--------|
|            | 氏名       | 校名 | 記録     | 氏名       | 校名 | 記録     |
| 100M自      | 高橋 照安    | 葵  | 1'02"9 | 渚 三和     | 甲山 | 1'07"9 |
| 400M自      | 深津 伸夫    | 附属 | 4'57"1 | 紺野 恵子    | 竜海 | 5'10"1 |
| 100M平      | 橋本 光弘    | 竜海 | 1'14"1 | 鳥山いづみ    | 福岡 | 1'27"7 |
| 100M背      | 金沢健一郎    | 美川 | 1'13"8 | 岩月留美子    | 矢北 | 1'16"5 |
| 100Mバタフライ  | 畔柳 圭司    | 甲山 | 1'05"7 | 藤井 千夏    | 矢作 | 1'18"1 |
| 200M個人メドレー | 築山 克行    | 矢作 | 2'37"1 | 大島 洋恵    | 矢作 | 2'55"9 |
| 400Mメドレー   | 矢作中学校チーム |    | 4'52"8 | 竜海中学校チーム |    | 5'17"7 |
| 800Mリレー    | 甲山中学校チーム |    | 9'44"7 |          |    |        |
|            | 矢作中学校チーム |    | 9'45"0 |          |    |        |
| 400Mリレー    |          |    |        | 竜海中学校チーム |    | 4'54"7 |

・印は大会新記録

いでいる。

同校は、五十四年四月に野生鳥獣保護功労者として文部大臣賞を受賞したほか、四十七年以後、県の鳥獣保護実績発表大会でしばしば知事賞、県教育委員会賞を受賞しており、今回こうした功績が環境庁に認められた。

### ■根石小、美川中 特選

#### 県学校緑化コンクール

県教育委員会と県緑化推進協議会主催の五十年年度学校環境緑

化コンクールにおいて、小学校の部の知事賞、特選に根石小。

また中学校の部の県緑化推進協議会長賞、特選に美川中がそれぞれ選ばれた。両校とも全国大会の県代表校に推薦されることになった。

### ■十・十一月の研究発表校

●竜美丘小 十月十三日(火)

●日本初等理科教育研究会 第二十一回全国大会

●井田小 十月二十七日(火)  
「太陽と土に親しみ、自ら運

動に励む子の育成」

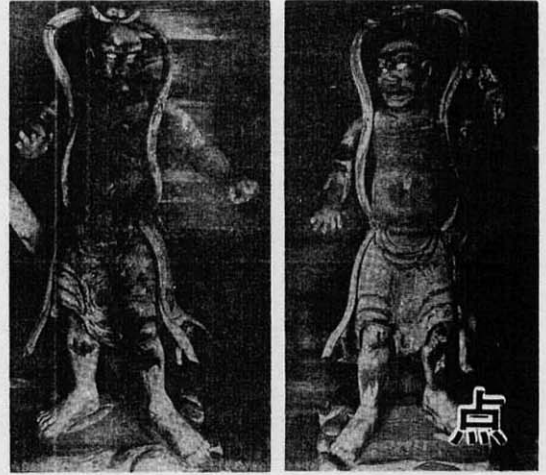
●甲山中 十月三十日(金)  
東海北陸地区中学校技術・家庭科研究会 愛知大会  
●常磐南小 十一月六日(金)  
「『できる喜び』を追求する教育活動」

●矢作北小 十一月十日(火)  
「言語環境を整える―美しく豊かな話しことばを求めて―」

●常磐中 十一月二十七日(金)  
「ゆとりの時間の活用と実践」



# 和田山法性寺仁王像



所在地—岡崎市法性寺町

比叡山延暦寺末・法性寺には、像高一メートル二十ほどの阿吽仁王像がある。この像は、南北朝頃の作といわれる滝山寺像、

永正十二年（一五一五）作の真福寺像と比べ、極めて小像である。像容は、玉眼・寄木作りのおだやかな像で、慶長三年（一五九八）から昭和二十年七月十九日まで、甲山寺の仁王であり、岡崎空襲の前日、旧の位置に戻って、戦災を免れたものである。長輝山・甲山寺は、享祿三年（一五三〇）清康が、安祥から薬師堂を城内に移し、慶長八年

（一六〇三）家康の時、岡崎城の鬼門として、甲山の地に、寺祿二百五十石、一山十二坊と共に建てられた。

法性寺の南には、鎌倉街道が通り、東に有名な犬頭神社、大久保氏ゆかりの妙国寺があり、境内には、秘仏大日如来と慈恵大師を祭る本堂、地藏尊を祭る地藏堂と小さな仁王門等がある。法性寺の仁王は、この地で永祿年間の一向一揆を、甲山の地では、岡崎城の守護神として、東北から、岡崎の人と城をあたたかく見守ってきたのである。

●カット

三島小

宇野友啓

## 日本の本

- 義孝対談 ひと筋の人 高橋 義孝 1,200円
- 平凡社
- 単位の辞典 ラティス 小泉袈裟勝監修 2,800円
- 列島地震 安倍 北夫監修 1,300円
- 桐原書店
- がらくた博物館 大庭みな子 780円
- 文芸春秋
- 落語 長屋の四季 矢野 誠一 850円
- 読売新聞社
- 文化なき文化国家 福田 恆存 1,200円
- PHP研究所
- 漢字の話Ⅱ(植物編) 藤堂 明保 1,300円
- 朝日新聞社
- 日本婦道記 山本周五郎 1,700円
- 新潮社
- ふりかえり ふりかえりつつ 子育て ないだ 1,000円
- 日本書籍
- マラッカ物語 鶴見 良行 1,800円
- 時事通信社
- シベリア紀行 白と青のバイカル NHK取材班 880円
- 日本放送出版協会

「お、これは写真になるぞ。」

岡崎再見は、並木道。車を運転していても、並木についつい目がいつてしまう。ふだんは気にもとめなかったが、ちよつとした道には木が必ず植えられている。松に桜に柳。新しいところで、ポプラにトウカエデ。すばらしい並木道、どなたと歩かれますか。

シーンと静まりかえった庭の片隅で、いとどが淋しげに鳴いている。

かすれた、とぎれとぎれのその声は、秋も深く初冬を思わせる。

あおまつむしに占められたあの喧噪の夜も過ぎ去って、しみじみと明月を仰ぎ、冷たさを肌感じながら、物思いにふけるこのごろである。

## シオリア

秋の夕日に 照る山もみじ……教室から子供たちの明るい歌声が流れてくる。一日の気温の差が著しいほど紅葉は美しくなると言われている。

大紅葉燃え上らんとしつつあり 虚子  
紅葉狩りの秋の一日は楽しいものだ。  
一枚の紅葉した葉の中にも自然の偉大な営みと美しさを感じる。

随想、十月号外山滋比古氏の書かれた話に花がさいた。先ずE先生。「いいよ。読んでみて」早速そのグループが読み出す。「本当、その通り。最後のきわめて教育的。がいいね。」「授業参観の時なんか邪魔になるだけ。……：……久しぶりに「岡崎の教育」が話題になって、作った甲斐を感じたひとときでした。